

令和元年度（第63回）

岩手県教育研究発表会発表資料

特別支援教育分科会

肢体不自由教育における主体的・継続的な学びを支える支援の在り方を求めて  
～本のめぐり，視覚活用のための姿勢保持等身体コントロール困難な肢体不自由児のため  
の主体的な学びを支える音声教材の活用をとおして～

令和2年2月14日  
岩手県特別支援学校協議会  
岩手県立盛岡となん支援学校  
石川 茜

# 肢体不自由教育における主体的・ 継続的な学びを支える支援の 在り方を求めて

～本のめくり, 視覚活用のための姿勢保持等身体コントロール困難な肢体不自由児のため  
の主体的な学びを支える音声教材の活用をとおして～

岩手県立盛岡となん支援学校  
教諭 石川 茜

## 岩手県立盛岡となん支援学校

- 昭和37年4月 岩手県立養護学校  
肢体不自由の子どもたちのために創立
- 昭和48年4月 「岩手県立盛岡養護学校」と改称  
隣接する県立療育センター内に都南校を設置
- 平成21年4月 「岩手県立盛岡となん支援学校」と改称  
隣接する県立療育センター内に分教室を設置
- 平成30年1月 県立療育センターと共に矢巾町に移転  
本校と分教室が統合



# となん

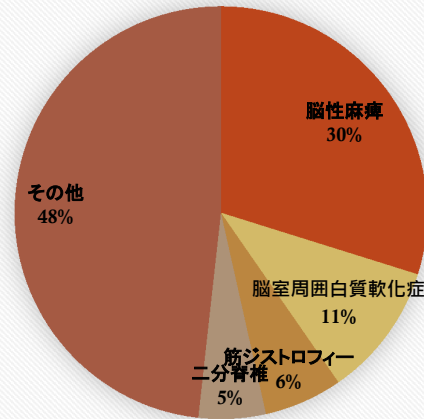
- ・学校が旧都南村に位置していたこと
- ・分校として都南校を有していたこと
- ・中国の莊子に「函南の翼」の言葉  
「南の新天地で  
目標に向かって大きく羽ばたく」



## 教科書データ活用

# 本校の児童生徒の実態

本校児童生徒の主な疾患



■ 脳性麻痺 ■ 脳室周囲白質軟化症 ■ 筋ジストロフィー ■ 二分脊椎 ■ その他

## 脳性麻痺の定義

受精から生後4週までの間に生じた  
脳の非進行性病変に基づく  
永続的な、しかし変化し得る  
運動及び姿勢の異常

1968年厚生省脳性麻痺研究班

# 脳性麻痺の分類

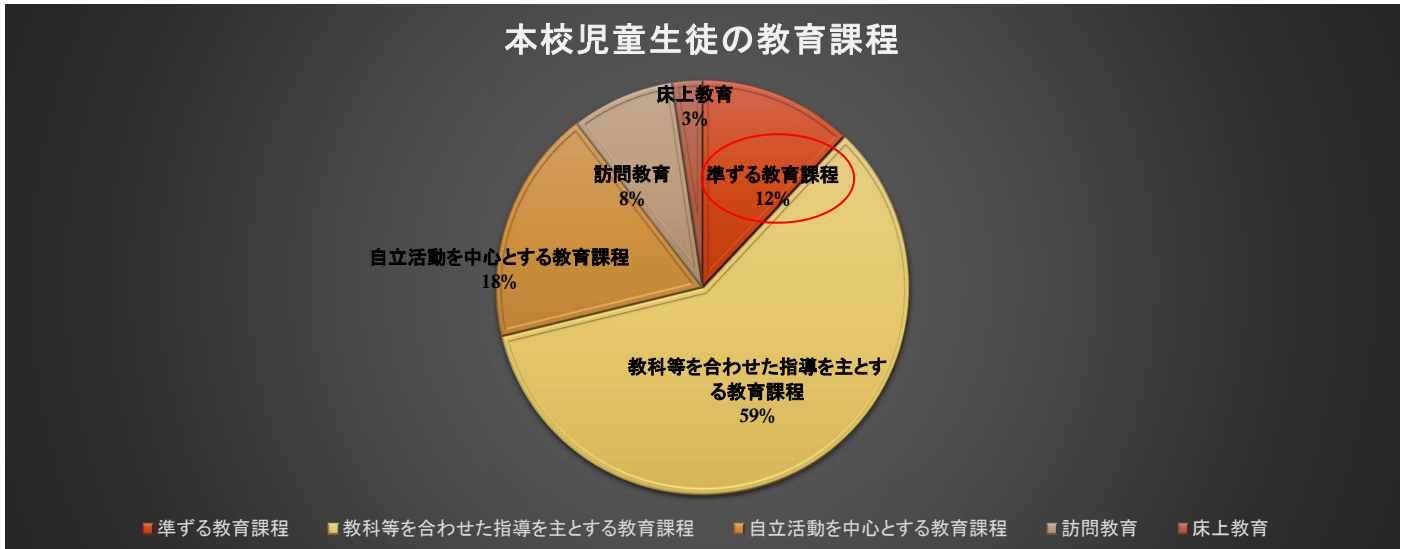
- ・痙直型  
高緊張, 姿勢の固定化
- ・アトローゼ型  
不随運動, 姿勢の保持が困難
- ・失調型  
低緊張, バランスの保持が困難
- ・混合型

## 脳室周囲白質軟化症

脳性麻痺の中でも, 脳の中の脳室周囲に白質(神経線維が行き来する構造)があり, ここに血液がいきわたらず, 運動機能障がいを起こす病気をいう

早産に多く見られ, 視覚認知や空間認知に課題をもつ児童生徒も少なくない

# 本校の児童生徒の教育課程



## 特別支援学校 小学部学習指導要領

### 第2章 各教科

#### 第1節 小学部

##### 第1款3 肢体不自由者である児童に対する教育を行う特別支援学校

(4) 児童の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

(5) 各教科の指導にあたっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。

# 実践 1

## 1 指導対象

本校小学部2年 男児

## 2 アセスメント

・矯正視力は、1.0だが、教科書が読みづらい

・1文字ずつは読めるが、文章として読みづらい



## 3 AccessReadingの教科書データ(epub形式)

AccessReadingとは

PC・タブレット端末によって音声読み上げを  
することができる教科書の電子データ

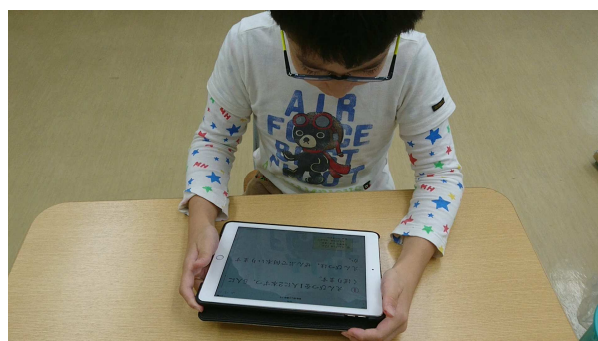
・ポイント数や文字色，背景色

・1行に入る文字数

## 4 自立活動の関連

- ・iPadの活用開始
- ・読み速度の比較(MNリード)
- ・iPadの縦横を変え,1行に入る文字数を変えることによる読み速度の比較
- ・外部専門家の言語聴覚士相談

## 5 AccessReadingの教科書データ使用の様子





## 実践 2

### 1 対象児童

本校小学部 5年男児

### 2 アセスメント

- ・不随運動により、読んでいる途中からどこを読んでいるか分からなくなる
- ・声に出して読むことに集中すると、内容理解ができていなくなる



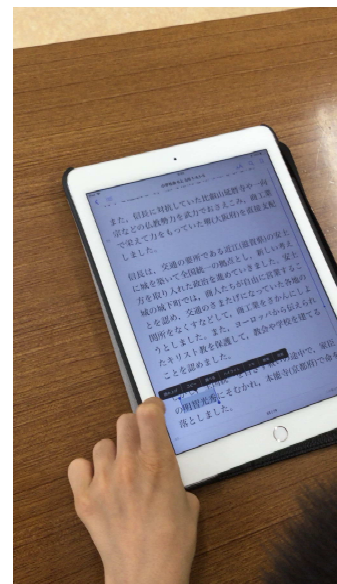
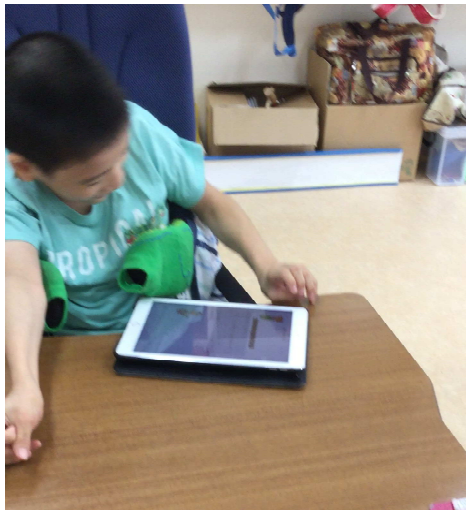
### 3 AccessReadingの教科書データ(epub形式)

- ・読み上げ機能
- ・検索機能

## 4 自立活動の関連

- ・iPadの活用開始
- ・「読み上げ」機能の操作確認
- ・「検索」機能の操作確認

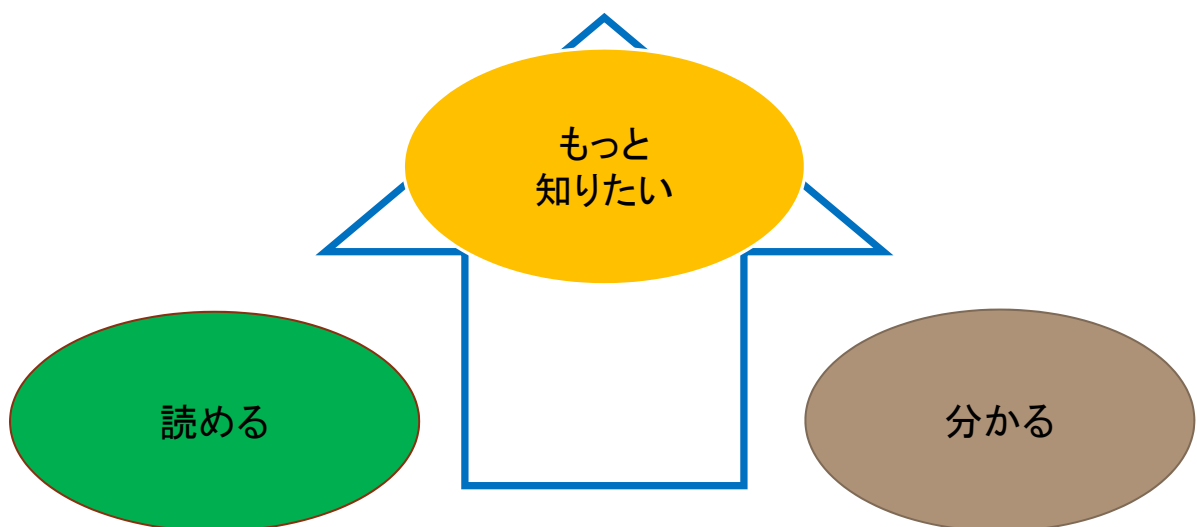
## 5 AccessReadingの教科書データ使用の様子



## AccessReadingの活用をとおして

- ・情報の限定(必要な情報だけ提示できる)
- ・内容理解
- ・繰り返し聞くこと
- ・子ども同士の関わり
- ・共に学ぶ楽しさを実感

## 学びに向かう力の向上



自分で読まなければいけない，自分で読めなければいけないではなく，「読める」「分かる」手段があるのであれば，どんどん活用していくことが大切だと実感した。また，今後は学校だけでなく，家庭やデイサービスなどでも活用し，さらに，児童が自己実現を1つ1つ重ね，主体的に学習をしていく，そんな後ろ姿を見守っていきたい。

## 読書の取り組み

**第3次岩手県子どもの読書活動推進計画（概要版）**

○計画の性格・期間

☆「いわて県民計画」の理念を踏まえ、本県の子どもたち(乳幼児・児童・生徒等、概ね18歳まで)が読書活動に魅力を感じ、主体的に取り組むことができる環境づくりを進めるための総合的かつ計画的な施策の方向性を明らかにするためのもの。  
☆平成26年度から概ね平成30年度までの5か年計画。

○本県の現状

☆ 多くの子どもたちが読書の重要性を肯定的に認識  
☆ 学年が上がるにつれての”読書離れ”が課題  
☆ 幅広い読書活動推進のネットワーク形成と充実が必要

○読書活動推進の方向性

☆ 子どもが本に親しむ環境づくり  
☆ 家庭、地域、学校等が連携協力した取組の推進  
☆ 子どもの読書活動に関する普及・奨励と社会参加活動の促進

○読書活動推進のネットワーク

○読書活動推進に期待される役割

「家庭」・・・生活の中に読書が位置づけられるよう、子どもの読書意欲に応じた働きかけを行うとともに、保護者も一緒に読書に親しむことを期待します。

「地域」・・・読み聞かせや文庫活動等への主体的な参画を進めるなど、学校や家庭、図書館等における読書活動推進を支える地域の教育力を期待します。

「学校等」・・・教育活動や保育活動の全般にわたり「言葉の力」や「豊かな心」を育む中核的な活動の一つとして読書を位置づけるとともに、家庭や地域との協働による読書活動の推進を期待します。

## 小学校学習指導要領解説

## 国語編

各学年の内容

○ 読書

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
エ <b>読書に親しみ</b> 、いろいろな本があることを知ること。	オ <b>幅広く読書に親しみ</b> 、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	オ <b>日常的に読書に親しみ</b> 、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くこと。	オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

# 特別支援学校教育要領学習指導要領解説 総則編

目標・内容の一覧〔国語〕

○ 読書

段階の目標	1段階	2段階	3段階
学びに向かう力, 人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、 <b>読み聞かせに親しみ</b> 、言葉でやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、 <b>読書に親しみ</b> 、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

## 事例 1

小学部 準ずる教育課程

5年 男児

6年 男児

## 肢体不自由児の読書の課題

- ・本が持てない
  - 誰かに本を持ってほしい
  - 本を持ち、ページをめくる人が必要

## 肢体不自由児の読書の課題

- ・どこを読んでいるか分からなくなる
  - 読んでいるところが分かるようにしたい
  - 読んでいるところを指でなぞってほしい

## 肢体不自由児の読書の課題

- ・読んでいると、緊張が強くなり、疲れる
- 誰かに読んでほしい

## デイジー図書との出会い

国語6創造(光村図書)

「やまなし」

平行読書として 宮沢賢治の作品を読む




# デイジー図書との出会い


- ・A4のプリントにして 家庭学習で読む



読書って、  
面白いんですね。



賢治の作品は  
なんか独特。



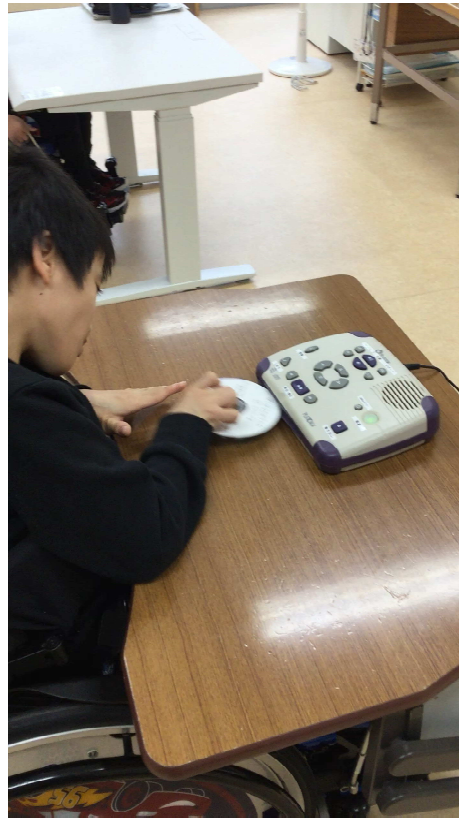
ひとりで  
読むって  
いいですね。

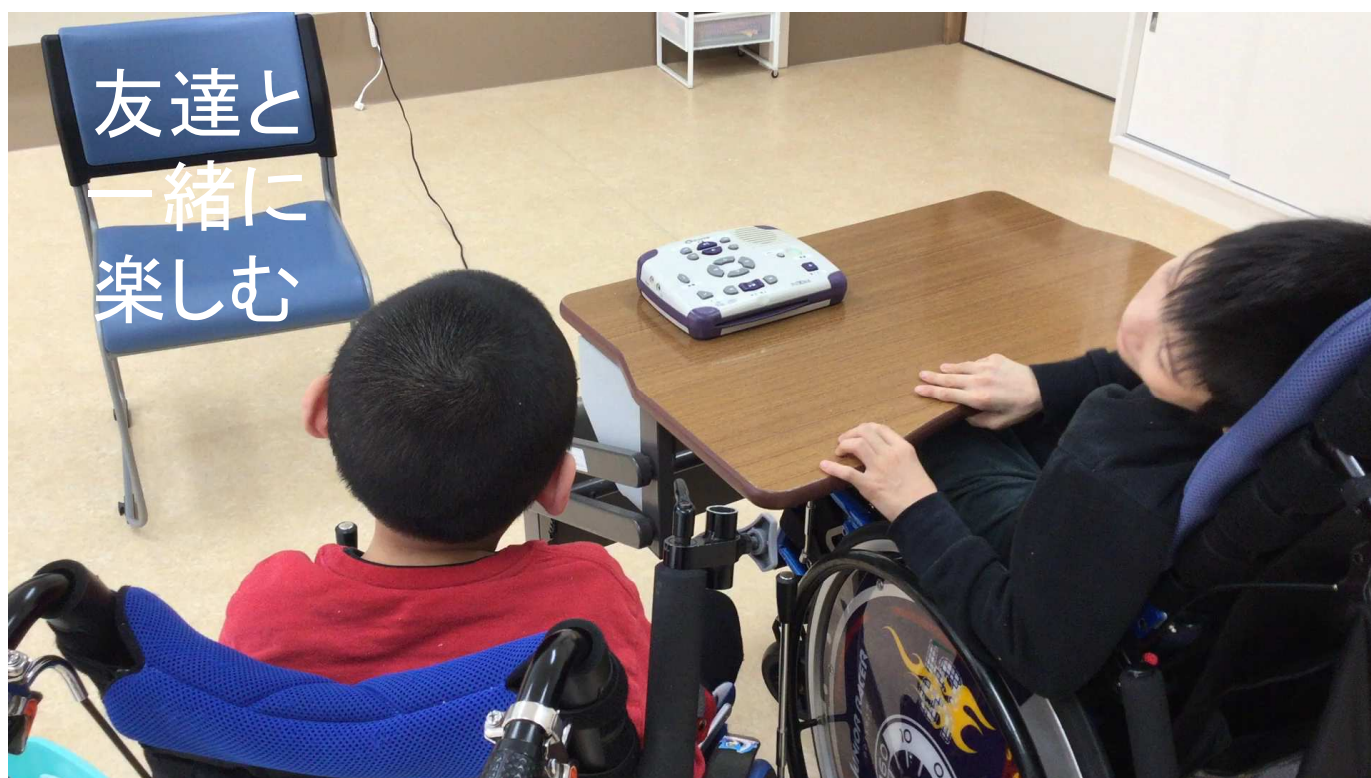
# デイジー図書との出会い

岩手県立視聴覚障がい者情報センターへ

- ・肢体不自由児も、音声で 読書を  
楽しみたい

- ・個人としてではなく、学校として利用可能





## 事例 2

小学部

各教科等を合わせた指導を主とする教育課程

小学部 6年 男児

- ・発語なし
- ・コミュニケーションの手段として「ペチャラ」を使用



言葉で  
表したい



言葉で  
やり取りを  
したい

語彙力

国語力

読書

集中力

想像力

使い方

聞く

言葉

よさ

伝える

## 読書の取り組みをとおして

視聴覚情報センターでは「視覚・聴覚に障がい  
がなければ貸せません。」と言われ驚いたが、学  
校として借用し、子どもたちとともに活用し、その  
様子を伝えると、「団体登録しませんか？」と進め  
られた。

子どもたちの読書の充実が図れるのであれば、  
たくさんの機関を巻き込んで、言葉、本との出会  
いを大切にしていきたいと思う。



# 学校前の町道に音響信号を！

## さいごに

肢体不自由児の学習の仕方は、一人一人違います。しかし、その子に合った学習の仕方が必ずあると考えます。

それを探り続けることで、児童の学習が広がっていきます。

そして、学ぶ喜びを実感したとき、自信をもって「発信する力」が高まります。これからも、子どもたちとともに、私も発信していきたいと思えます。